

2018年年次大会 領域7インフォーマルミーティング

2018年3月23日 12:30～13:30

場所：東京理科大学野田キャンパス B401 会場

主催：領域7（運営委員）

議題目次

1. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介
2. 次期領域代表・副代表の紹介
3. 次期領域運営委員の紹介
4. 次々期運営委員の選出・承認 [審議事項]
5. 秋季大会から行われる「日本物理学会領域7 学生優秀発表賞」について
6. 年次大会におけるポスターセッション開催について[審議事項]
7. 年次大会における日本物理学会学生優秀発表賞の公募・選定に関する提案
[審議事項]
8. メーリングリスト運用に関して
9. 関連会議・シンポジウムの紹介
10. 次回大会について
11. その他

1、現領域代表、副代表、運営委員の紹介

<領域代表>

岡本 博 先生（東大）（任期：2017年4月1日～2018年3月31日）

<領域副代表>

竹延 大志 先生（名大院工）（任期：2017年4月1日～2018年3月31日）

<領域運営委員>

中井 祐介 先生（首都大）（任期：2017年4月1日～2018年3月31日）

古川 哲也 先生（東京理科大）（任期：2017年4月1日～2018年3月31日）

石河 孝洋 先生（大阪大）（任期：2017年10月1日～2018年9月30日）

中 惇 先生（早稲田大）（任期：2017年10月1日～2018年9月30日）

2、次期領域代表・副代表の紹介

<領域代表>

竹延 大志 先生（名大）（任期：2018 年 4 月 1 日～ 2019 年 3 月 31 日）

<領域副代表>

山本 浩史 先生（分子研）（任期：2018 年 4 月 1 日～ 2019 年 3 月 31 日）

3、次期運営委員の紹介

<次期領域運営委員>

石河 孝洋 先生（大阪大）（任期：2017 年 10 月 1 日～2018 年 9 月 30 日）

中 惇 先生（早稲田大）（任期：2017 年 10 月 1 日～2018 年 9 月 30 日）

毛利 真一郎 先生（立命館大学）（任期：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）

川楯 義高 先生（理研）（任期：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）

4、次々期運営委員の選出・承認 [審議事項]

現運営委員により、次々期運営委員として以下の方々を選出し、承認された。

<次々期領域運営委員>

菅原 克明 先生（東北大学）（任期：2018 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日）

吉見 一慶 先生（東大物性研）（任期：2018 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日）

5、秋季大会から行われる「日本物理学会領域7 学生優秀発表賞」について
領域委員より下記の日本物理学会学生優秀発表賞の領域7の規約について説明
を行った。

日本物理学会 領域7 学生優秀発表賞授賞規定

(1) 対象

ポスター発表を対象とする。

(2) 応募資格

第一著者として発表を行う者。発表者が、発表する研究の主要部分に寄与していること。過去に、領域7において学生優秀発表賞を授賞していないこと。

(3) 応募方法

学生優秀発表賞に応募する場合は、講演申込（Web 登録）において、200文字の講演要旨入力欄の最初に「学生優秀発表賞応募」と記入する。

(4) 審査員

審査員は、領域代表が、領域副代表及び領域運営委員と協議の上、領域全体から分野のバランスを考慮して選出する。

(5) 審査方法

審査員は、各発表について、研究内容（研究の意義と新規性、実験・考察の妥当性）、および、プレゼンテーション（説明の分かりやすさ、質疑応答の内容、完成度）をもとに採点を行なう。発表一件に対し、原則三名の審査員が審査にあたる。ただし、審査員が発表の共著者である場合は、該当する発表の審査に加わらないこととする。

(6) 授賞者の決定

領域代表、副代表、及び、領域運営委員が、集計した採点結果をもとに審議し、受賞者を決定する。

6、年次大会におけるポスターセッション開催について[審議事項]

現領域委員から、秋季大会における盛況なポスターセッションを受け、春もポスターセッションを行なっては、という意見があることを紹介した。また、春のポスターセッションは修士一年の終わりの時期における学生の発表の貴重な機会であることを説明し、領域7における、議論・情報交換の活性化、若い大学院生の参加の増加、発表数の増加を目的として、来年春の年次学会からポスターセッションを設置することを提案した。賛同者多数により提案が承認された。

7、年次大会における日本物理学会学生優秀発表賞の公募・選定に関する提案 [審議事項]

領域委員から春の年次大会でも学生優秀発表賞の公募・選定を行なうことを考えた下記の検討を説明した

A. ポスター審査

メリット

1. 全発表件数が増える可能性。春のポスター開催による領域活性効果。特に他領域からの新規参入、共同発表へつなげる効果。
2. 秋のポスター賞と春のポスター賞が同一の価値となる。
3. 秋季大会の経験があるので導入しやすく、持続可能な仕組み＆負担が少ない。
4. 将来的に口頭発表を検討する場合も、他領域の口頭発表賞ノウハウが確立するのを待つことが可能

懸念事項

1. ポスター賞狙いで、優秀な学生の発表が口頭からポスターに移るおそれ
2. ポスターセッション開催により、学生以外でも、一部は口頭発表でなくポスター発表が選択され、口頭発表が減るおそれ
3. 発表件数1件という制約があるために、ポスター発表の分、口頭発表が減るおそれ

なお、ポスター審査に関する上記の懸念を検討するために、2017年秋季大会における口頭発表とポスター発表の重複講演者数が2名と少なく、年次大会における重複講演の禁止に関する懸念が問題になる可能性はいまのところ低いことを説明した。

B. 口頭発表を一つのセッションに集約する場合

(導体・固体で審査セッションを設け、審査対象発表を集約して審査)

メリット

1. 審査発表を比較しやすいため、審査基準が公平になりやすい。
2. 審査員に、そのセッション内の発表は基本的に全て審査してもらえば、審査員の人数が少なくてすむ

懸念事項

1. 賞のためにプログラム編成を根本から変えることは問題、あるいは「賞のための学会」化は避けるべきという意見あり。賞を取れるほど質が高い発表は関連するセッション内で情報共有されるべき。
2. 審査員はセッションに張り付かねばならず負担は小さくない。
3. 関連性のない発表が集まるセッションとなる場合、ほぼ審査員と関係者しかいないセッションになる恐れがある。
4. プログラム編成の困難度が増加
5. 応募数が少ない時、そのためのプログラム編成が大変。応募者が少ないことが周知されると賞をやる意味についてネガティブな評価が下るおそれ。

C. 口頭審査を分散させる場合

(通常セッション中に審査対象を担当審査員が審査。)

メリット

1. 座長を審査員に含めると、審査員が一つの発表につき二人となる。(計三人審査の場合)
2. 本来の学会のプログラムを乱さずに口頭審査できる。

懸念事項

1. 審査発表を比較しにくいため、審査基準がばらつきやすい。
2. 審査員が多数必要な場合、利害関係の問題からプログラム編成が困難。
春季大会は卒業式等で参加できない先生がいて審査員不足の恐れ。

3. 座長が審査員だと公然の秘密になる場合、座長ウケのいい発表をするおそれ。匿名性の問題。
4. 座長業務の負担増
5. 審査員の入退室で審査員の匿名性が損なわれる恐れ。
6. 審査員が審査のためにスケジュール調整の必要あり。スケジュール調整がつかなかった場合のバックアッププランが必要
7. 表彰が最終日午後の最後に行なう形になる。
8. 審査員の審査対象発表がプログラム上ばらついており、入退室があるため正確な集計ができるか？

上記の検討を踏まえ、領域委員から年次大会に置いてもポスター審査によって日本物理学会学生優秀発表賞を出すことを提案した。具体的には、次の年次大会（2019年3月）から導入すること、公募・審査方法等は、秋季大会におけるポスター審査の方法を踏襲することを提案した。

提案後下記の質疑応答があった。

質問 1

春と秋それぞれでポスター発表を毎年やっていくという提案か？

回答 1

そのとおりです。

質問 2

秋のポスター賞受賞人数は何人だったのか？ポスター発表件数、審査対象者に対する割合を固定しているのか？

回答 2

2017年秋季大会において受賞者は3名、審査対象者は17名でした。受賞体人数については若干名としており、ポスター発表件数、審査対象者に対する割合を固定しているわけではありません。

質問 3

秋は口頭発表とポスター発表を両方申し込めるということか？それらは同じ内容でもかまわないのか？

回答 3

秋季大会では重複講演が認められているので、口頭発表とポスター発表を両方申し込むことは可能です。なお、前回の秋季大会においては口頭発表とポスター発表の重複発表者は2名のみでした。

同内容でも構わないのかという件については、秋季大会でのポスターセッション導入の際にも議論されたとおり、一つの発表は独立した一つの内容であることが原則と考えています。

質問 4

春のポスターセッションを行なう場合にも、ポスターセッション開催時間帯はパラレルセッションなしにするのか？

回答

はい。パラレルセッションは無しにするつもりです。

質問 5

口頭発表だが、審査を希望する学生には、ポスターセッション時に口頭発表と同内容のポスター発表を行わせて審査するのはどうか？

回答 5

運営委員らによって検討はされましたが、少なくとも年次大会においては、一人につき発表は一件とする規定があるため不可能であるため、難しいと考えています。

質問 6

学生賞の口頭審査を今後行うかどうかについては継続議論ということでもいいか？

回答 6

はい。今後も継続議論していく予定です。

以上の討論の後、運営委員からの提案が承認された。

8、メーリングリスト運用に関して

以下の内容を周知した。

■ 現在のメーリングリストの状況

アドレス数上限： 1000

登録アドレス数： 843 (2018 年 3 月 20 日現在)

勝手ながら、講演者のアドレスは運営委員が登録しています。

・卒業などで使われなくなったアドレスについて削除の連絡をお願いします

・なお、研究室 ML によって登録されているアドレスからは
bunyu4@r7.div.jps.or.jp, committee_r7@jps.or.jp への投稿はできません。

(投稿の必要がある場合には、ML に直接登録してあるメールアドレス
をお持ちの方をお願いしますか、運営委員のメールアドレスに直接、ご連絡をお願いします)

9、関連国際会議・シンポジウムの紹介

会議:Gordon Research Conference

Conductivity and Magnetism in Molecular Materials

日程:2018 年 8 月 12 日 (日) -17 日 (金)

参加申込締切：2018 年 7 月 15 日

会議: Gordon Research Seminar (大学院生、PD, 助教 対象)

日程: 2018 年 8 月 11 日 (土) -12 日 (日)

口頭発表締切：2018 年 5 月 11 日

参加申込締切：2018 年 7 月 14 日

10、次回大会について

2018 年秋季大会

同志社大学 (京田辺キャンパス)

2018 年 9 月 9 日(日)~12 日(水)

1 1、その他

- ・岡本領域代表より、今年度から、領域 7 の若手奨励賞の枠が 2 名になったことが報告された。この枠については、過去 3 年間の年次大会の発表件数によって割り当てられていることが説明された。詳細は、物理学会の Web (<http://www.jps.or.jp/activities/awards/wakate.php>) を参照のこと。

- ・岡本領域代表より、今回の学会から、共催シンポジウムが開始されたこと、共催シンポジウムの要綱の要点

(http://www.jps.or.jp/activities/meetings/joint_symposium/)、領域 7 において本大会に 2 件の共催シンポジウムの提案がありそのうち 1 件が採択されたこと、が報告された。また、24 日の午後に、採択された領域 7 の共催シンポジウムが行なわれるとのアナウンスがなされた。